



## 浄心天華

——七峰会有縁の人々の永遠の心の安らぎを生きとし生きる者、誰れしもが其の時刻れば必ず来世での生がある。「浄心天華」は大日経の中にある浄菩提心門に説かれている法の真随である。

現世での生はどんなものであれ、一切の執着を捨て心を清浄にする事に勧めれば、期せずして一切の業障が消え諸仏、諸尊の前に坐り、永遠の心の安らぎと光無量の世界に妙喜の樂を得る——と揮毫した当法人理事、小野隆一氏（蓮山と号す）は解説してくれている。

ここ津軽山革秀寺は、津軽藩祖為信公御霊屋（国指定重要文化財）のある所で、秀峰岩木山を背にし、七峰会事業発足の地であるお山に、いつも抱かれているという2つの意味で、この地に「来世の門」として慰霊の碑を建立した。毎年春5月初旬、合祀諸霊の慰霊法要を執行している。



小野隆一氏

### ——詩碑について——

アンモンと風花 —— 作者解説

アモンとは、数千年前に今のエジプト地方に現われた聖者である。印度では、今日なお、悟りを啓いた人をブッタといい、命をかけてブッタを信ずる事をナーモという。そしてこれが、ナーモ・アミー・ダーポーとなり、中国で南無阿弥陀佛と釈称されるようになったという。

風花は、誰れでもよく知っている2～3月頃の晴天の日に、どこからとなく降って来る淡雪の事である。

一人ゆく 幽玄の山 この道を

アモンは灯す 風花に

光あふれて 碑 匂う、

蓮山